

# 全国つなぐ拠点へ

## 六原に物流センター

### カリッー 来年4月稼働見込む 東日本

#### 金ケ崎

全国で物流を展開するカリッー(本社 愛知県安城市、加藤正則取締役社長)は、金ケ崎町六原地区内にカリッー東日本岩手金ケ崎物流センターを新築する。倉庫として2022年4月から稼働予定で、自動車関連をはじめとする産業が集積している町内・県南地方と全国をつなぐ物流拠点とする。着工に先立ち、7日に現地で工事の安全祈願祭が行われ、同社や施工業者、町などの関係者が無事の完工を願った。

町内には13年、貨物自動車運送と貨物利用運送を手

掛けるカリッーの子会社・カリッー東日本(福島県三

春町)が進出。現在は同町六原七里に岩手営業所を構えている。新築の物流センターは本県での事業拡大のため、同町六原の狐森、頭無地内にまたがる約2・3畝の民有地を取得して建設している。鉄骨造り平屋建てで、床面積は約6611平方メートル。倉庫の半分は定温倉庫とし、主要取引先の自動車関連産業で需要が高まっている電子部品の保管に対応。一般貨物も取り扱う見込み。

カリッー本社による用地



物流センターの安全祈願祭でくわ入れをするカリッーの加藤社長

取得や建設などの総事業費は約14億円。来年3月に完成する予定でカリッー東日本が運営し、棟の増設や自動化による省力化設備の導入も視野に入れている。稼働に合わせて地元からドライ

バーら約30人の雇用も見込んでいる。安全祈願祭で加藤社長は「センター新築は、本社創立70周年の主要事業の一つ。よき企業として地域に密着し貢献するため、名前

に金ケ崎を入れることにはこだわった。全国のどの地域でも、何らかの恩返しができる」とあいさつ。出席した高橋由一町長も、完工と地元を舞台にした社業発展に期待を込めた。